

## 先輩農業者インタビュー



新規参入

園芸

新潟県弥彦村

上杉 圭吾 さん (新潟県出身)

### 就農のきっかけ

- 前職は中学校の教員ということですが、そこから農業にはどのように繋がったのでしょうか。

教員を目指していたので、大学のカリキュラムで作物の栽培等を学ぶ機会がありました。晴れて中学校の教員となり、やりがいも感じていましたが、農業にも興味があったことから、大好きな枝豆を軸に就農してみようと思いました。

### 就農前後の行動

#### 就農前のこと

- 新規参入に際して、研修は受けられたのでしょうか。

弥彦村で行われていた枝豆農家の育成事業を活用しました。個人農家と法人経営体の下で2年間研修を受けながら、スキルを磨いていきました。トラクターに乗ることも多く、運転技術も身に付きました。当時の方が乗っていたと思います。

## 研修修了後、独立・自営就農へ

---

- 研修修了後、すぐに独立・自営就農をされたのでしょうか。

研修が5月までだったので、そこから定植しても間に合う、8月の品種から栽培を開始しました。

- 独立・自営就農に際して、大変だったことはありますか。

特にありません。枝豆の農地についてはJAさんを通して紹介してもらいましたし、いちじくの農地も研修先から融通してもらうことができました。就農前に持っていた「農業」に対するイメージのギャップもありませんでした。

## 独立・自営就農後のこと

---

- 1年目のことを教えてください。

1年目は枝豆とブロッコリーを栽培し、もぎ枝豆については、しっかり収量が出ました。小規模だったので圃場の整備をこまめに行うことができ、翌年の準備や段取りの確認にも時間を割くことができました。周りからアドバイスをいただけたことも大きかったですね。

- 2年目以降の経営について教えてください。

2年目は枝豆の面積が倍になり、ブロッコリーも面積を拡大しました。また、翌年以降の収穫を目指し、いちじくを定植しました。

3年目は、枝豆とブロッコリー、いちじくに加え、さつまいもやアレッタを栽培しました。作業量が増えたので、出荷の時はアルバイトを雇用しましたね。

※アレッタ：ブロッコリーとケールを掛け合わせた日本発祥の野菜。

現在4年目になりますが、面積や品目は昨年と同程度で、1名を常時雇用しています。

- 1日の流れはどのようになっていますか。

今の時期(取材時：7月中旬)ですと、早朝4時から作業を開始します。枝豆の圃場で収穫作業を行い、朝食を済ませ、子どもを保育園に送った後、作業を再開します。お昼までに収穫・出荷作業を片づけて、午後は枝豆やいちじくなどの管理作業や防除を行います。夕方になると、保育園に子どもを迎えに行くような流れです。

- 今後の展望をお聞かせください。

面積を増やしていきたいですね。アルバイトを雇って、堅実に販路拡大を目指したいです。また、冬季の収入確保のためにも、いちじくやさつまいもの加工場を自前で建てたいと思っています。

あとは、同級生も枝豆で就農したので、将来的には法人化も視野に入れていきます。

- いちじくの圃場も綺麗に整備されていたのが印象的で、今後が楽しみです。

いちじくについては細かい補正が必要ですが、まだ圃場の6割程度しか稼働していないので、これから収益化が望めるとしています。





## 就農希望者へのメッセージ

### - 就農希望者へのメッセージやアドバイスをお願いします。

農業のイメージにとらわれず、やりたければやった方が良いです。

就農前に持っていたイメージと違うことで離農してしまう人もいますが、農業に対するイメージは志望する人の数だけあるので、そのギャップが解消されることはないと思います。教員の世界でも、着任して1か月で辞めてしまう人がいるくらいですから。

農業に対して凝り固まったイメージを持っておらず、フラットに物事を見ることのできる人が向いているのではないのでしょうか。

### - 良い意味でこだわりがなく、柔軟に動ける人、ということでしょうか。

そうです。一方で、特定の作目に強いこだわりを持っている人でも良いのかもしれませんが、中途半端なこだわりではなく、強烈なこだわりがあればその人の強みになると思います。

弥彦村は田舎というほど山奥でもないですし、スーパーやドラッグストアも近くにありまして、高速道路へのアクセスも良好です。県内であれば、弥彦村産の野菜は名前負けしないと思いますよ。



令和5年7月 経営支援課就農促進班取材

(写真提供(一部):弥彦村農業振興課)